

【2020年 乳汁検査まとめⅡ】

はじめに

先月に引き続き2020年の1年間に弊社で行った乳汁検査について報告します。

まず本記事にて使用している菌種や薬剤の略語等を以下に示します。

菌種

G(-)菌	大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌含む
大腸菌群	大腸菌、その他の大腸菌群
OS	環境性レンサ球菌
SA	ブドウ球菌
CNS	環境性ブドウ球菌

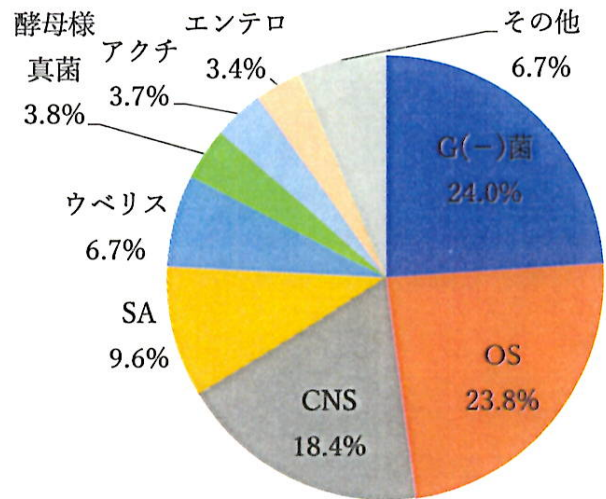
薬剤

略語	注射	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン	セファゾリン セファメジン
ERFX	バイトリル 10%	—
K	カナマイシン	タイニーPK
P	ペニシリン	ニューサルマイ
PLM	—	ピルスー
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

原因微生物割合

2020年1月～12月の検査頭数は1770頭、検査分房数は3544分房でした（どちらも重複含む）。2020年の検査数は、2019年の検査頭数1610頭、検査分房数3266分房と比べると増加しています。全検査分房数のうち原因微生物が検出されたのは

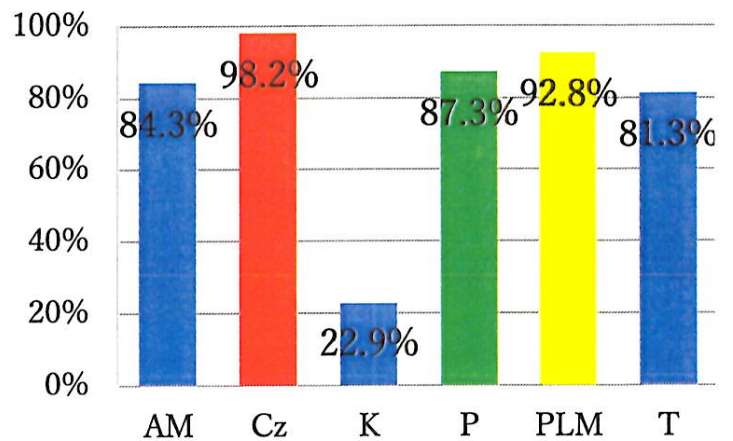
1736分房でした。この1736分房で検出された原因微生物の割合を以下に示します。（※グラフ1は先月掲載したものと同様です。）



グラフ1 原因微生物割合

感受性割合

SA、CNS、OS、ウベリスの感受性割合を以下に示します。感受性割合が高い順にグラフが赤、黄、緑、それ以下は青で示しています。

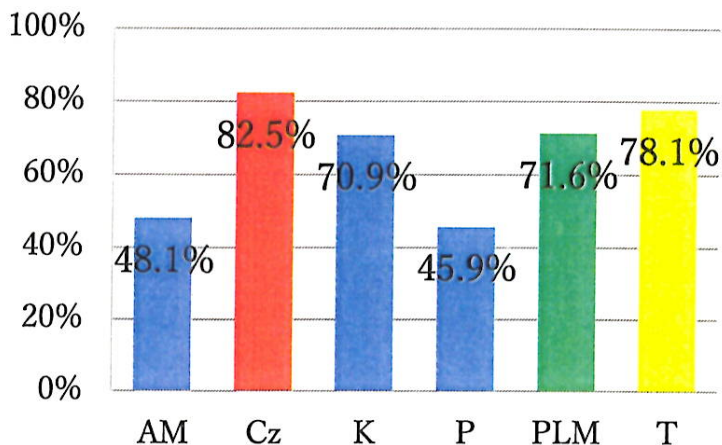


グラフ2 SA 感受性割合

SA に対してはKを除く5つの薬剤で80%以上の高い感受性割合を示しました。

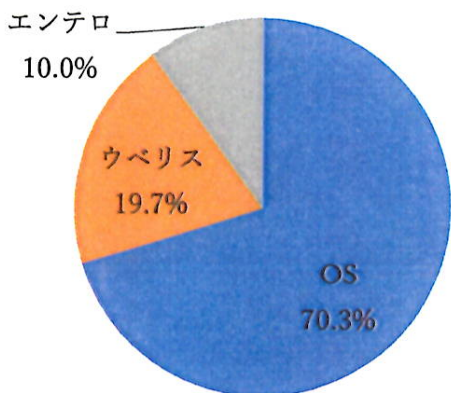


Total Herd Management Service



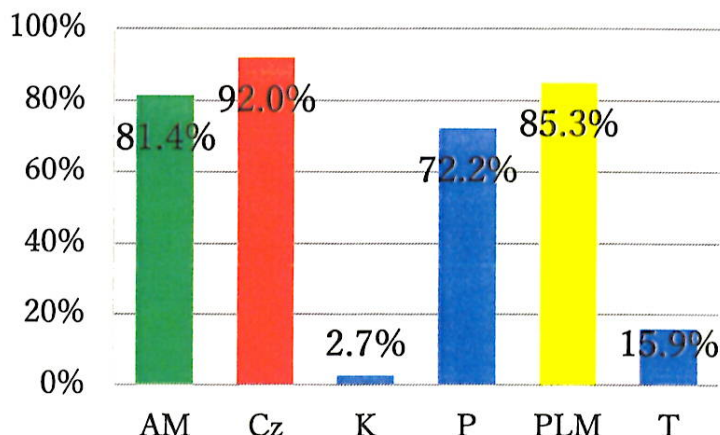
グラフ3 CNS感受性割合

SAと同様にCzの感受性割合が最も高く82.5%となりました。SAと比較するとKの感受性割合が高い結果となる一方で、K以外では全体的に感受性割合は低い結果となりました。



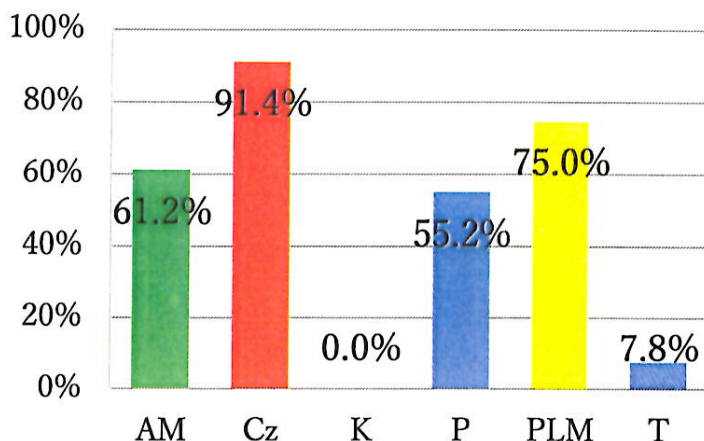
グラフ4 OS割合

イーザーメディアIIを用いてオンファームカルチャーを行っている農場において、赤い方(エスクリン添加コロンビアCA培地)にOSが生え尚且つ周囲が黒く変色した場合、約7割はOS、約2割はウベリス、1割はエンテロコッカスになります。



グラフ5 OS感受性割合

Czが92.0%と高い結果となり、続くPLM、AMも80%以上の感受性割合となりました。T、Kは共に低い結果となりました。



グラフ6 ウベリス感受性割合

OS同様にCzの感受性割合が最も高く91.4%となりましたが、続くPLM、AMはOSと比較して低い感受性割合となりました。

エンテロコッカスについては弊社で行っている検査では難治性のエンテロコッカスか治療に反応する可能性のあるエンテロコッカスかまでは判定できないため、どちらのタイプも含まれていると思われます。どの薬剤も感受性割合は低く、最も高いPで27.1%、続くAMで23.7%、PLMで22.0%という結果となりました。

最後に

先月に引き続き弊社で行っている乳汁検査について紹介しました。これらのデータは飼養形態、自家治療の有無等様々な条件下のものになりますので、必ずしも全ての農場に当てはまる訳ではありません。参考程度にお考え下さい。また、治療の効果が見られない場合は乳汁検査にて原因微生物及び感受性薬剤を特定することをお勧めします。

富田大祐



Total Herd Management Service